



恋人に祝お

れて転生したけ

ど男に抱かれる

のは御免だ ②

V S 神父①

ベロリンチョの一件があつて、勇者と格闘家はすこし調子をおかしくした。

ベロリンチョ（ノーマル）と対戦するとき、目の色を変えて、闘牛のように「うおおおおお！」と襲撃するのだ。

一撃で倒せる雑魚なのに。

ボス戦に挑むほどに大奮起して。

「男だからとか関係ないよ！魔物に仲間が傷つけられたら、怒るのは

当たり前だし、過剰反応するのもしかたないって！」

勇者に劣らず、お人好しな白魔導師が的を外れなフォローをしてくれたから、よかったものを。

「いい加減、ばれるぞ！」とやきもき、はらはらしていた矢先、やらかしやがった。

まあ、ある意味、秘密は守られたというか。

死人になんとやらというか。

相変わらず必要以上にヒートアップして、ベロリンチョに突撃した二人が、カウンターで舐められて、付属効果の「混乱」が発動。

混乱したまま、お互いを目の敵にして、ガチバトル勃発。

戦闘能力が高い二人だけに、相打ちでお陀仏。

戦闘に巻きこまれてベロリンチョも葬られ、非戦闘要員の俺と白魔導師は助かったけど。

いや、助かったけども。

砂漠のど真ん中。

町まで徒歩半日かかる場所に、棺桶二つと取りのこされるなんて。

この世界は、俺が生まれる前に流行った2D、ドット絵のRPG。

今どきのゲームは、アイテムや魔法ひとつで、ほいほい蘇生できるのが、ここでは死んだと同時に棺桶に入るから、手だしができない。生きのこったヤツが棺桶を引きずっていき、町の教会でお金を払い、

蘇生してもらおうしかない。

古いゲームのしくみは、俺が転生したあとも健在。

で、非戦闘要員でありお笑い要員の踊り子たる俺はよく棺桶におさまっていた。

なにせ、基本の防御力が低いし、踊りの邪魔になるから、ごてごてに防具を身に着けられない。

「あ、こいつ雑魚だ」と一目瞭然に魔物に舐められ、さらに装束が派手となれば、尚のこと目をつけられやすいから。

一方であとの三人は、冒険者として優秀。

行く先々で、必要な一定レベル能力を上回った状態でいて、危なげなく戦闘もダンジョン攻略も難なくこなす。

もし、このゲームをプレイしているヤツがいるなら、無鉄砲せっかちタイプではなく、慎重な安パイ主義タイプだろう。

時間をかけるのを厭わず、戦闘やサブミッションをしまくって経験値とお金を稼ぎまくり。

必要以上のレベル能力、装備を会得し、先行きの不安を打ち消してから、ダンジョンに臨んだり、つぎのエリアに移るといふ。

そうやって盤石な態勢を整えつつ進行をしてきたので、俺以外、死んだことがない。

すくなくとも、俺が転生してから、俺以外、死にかけたこともない。

なので、白魔導師と棺桶を二つ前にして、途方に暮れるのは初めて。

V S 神父②

俺は平均的 日本男児の握力しかないし、白魔導師は華奢な女の子だし、とても野郎二人がおさまった棺桶を運べない。

通りかかった荷馬車に乗せてもらうなどの手も使えない。

道のない砂漠のど真ん中「蟻地獄発生注意」の立て看板がある危険地帯では。

あたりには砂しかなく、風の音しか耳につかない寒寒しい場所で、でも、絶望している暇もなく。

いつ蟻地獄が発生して、棺桶が吸いこまれるかもしれないし。

あわわあわわと焦りながらも、白魔導師と頭を悩ませ、どうにか閃いた俺は、妖精、精霊召喚の舞いを踊った。

呼びかけに応じた砂の精霊（砂の山に、目、口、手がある）に、好物のりんごを与え、棺桶を運んでもらうことに。

砂漠を抜ければ、すぐに街道。

砂の精霊に礼を告げて別れたら、荷馬車をつかまえて、棺桶と共に乗せてもらい近くの町へ。

魔物に通せんぼされたり、ほかにトラブルに巻きこまれることなく、教会に辿りつけた。

「やあ、これはこれは、大変でしたな！」

にこやかに向かい入れてくれた、大柄な中年男の神父は気のいい人だった。

情けなくも勇者と格闘家が棺桶になったのに、呆れも、冷やかもしないで「お疲れでしょう、まあ、お茶でも」とへとへの俺たちを労ってくれたもので。

お茶で一服してから「では、神父さま」と白魔導師が鞆に手をいれたものの「あれ？」とごそごそ。

「どうしたの？」と聞けば「お金がない！」と涙目に訴えた。

仲間の財布のひもを牛耳る、鬼節約家の白魔導師が錢袋を忘れたり落とすわけがない。

と判断して、すぐに思いついた。

「そういえば、砂の精霊で小遣いほしがるヤツがいたな！」

報酬の前払いの、りんごを渡しても、尚もねだってくるのに、きりがないと聞く耳を持たなかつたのが、裏目にでたよう。

俺たちのやりとりで、事情を察しただろうに神父に振りかえるも、困ったように笑いかえすだけ。

このあたりは、むかつくほどゲームに忠実らしい。

いくら神父が親切でも、蘇生にかかる費用をタダにするとか、割引するとか、ツケにするとか融通を利かせられないとのこと。

踊りで稼げなくはないが、けっこうな額だから三日くらいかかる。

ゲームでは長く棺桶にしたままでも、ゲームオーバーにならなかつたが、転生後のこの世界ではどうだろう。

すぐに蘇生しないと死んでしまうか、体が腐ってゾンビのように復活するかもしれない。

しばらく放置していても大丈夫なのか。

神父に聞こうとしたところで「ひとつだけ、方法がありますよ」と肩をつかまれ、肯かれた。

「体でお支払いただければ」

